（別紙 3 ）　令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4491200012		
法人名	有限会社 スマイルリース		
事業所名	グループホーム 陽だまりの丘		
所在地	大分県豊後大野市千歳町新殿1233番地1		
自己評価作成日	令和3年4月14日	評価結果市町村受理日	令和3年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4491200012-00&PrefCd=44&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4ー110号 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	令和3年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人の理念でもある「人尊優顔の精神で地域福祉に貢献します」という考えに基づき、優しい心と思いやりを持って、認知症の利用者に対応している。特に、パーソンセンタードケア、ユマニチュードの療法を取り入れて、「認知症マインド療法」として取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、有料老人ホーム・デイサービスが併設された開設15年目の1ユニットのグループホームです。家庭的な雰囲気の中、その人らしく生き生きと生活が送れるよう、職員全員で気持ちを一つにしてケアに当たっています。尊厳を守り、利用者の視線に立って理解し、利用者に寄り添い・会話することで笑顔が見られるようになり、不穏になっていた状態が穏やかになり、職員の利用者に対する意識（思いやり）の高さが見られます。現在はコロナ禍で外出・面会等に制限が出ていますが、施設周辺は田畑やグランド・中庭の四季の花々を楽しみ自由に散歩が出来る環境にあり利用者が気分転換を図っています。また、地域交流に力を入れており、マラソン大会の応援やボランティア・保育園児の交流、実習生の受け入れ等地域との連携を大切に地域密着型施設としての役割を果たしています。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が職員の目に触れる場所に掲示することで、周知を図り理念に添った精神を持ち実践に繋げている	地域密着型サービスの果たす役割を踏まえ、事業所独自の目指すサービスのあり方を職員一同で話し合い理念として「優しい心と思いやりを持って接する」「地域貢献」を作り上げ、職員と共有・実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度はコロナ禍で、保育園などの来園他ボランティアを全てお断りしました。	地域ボランティアや保育園児の来園・マラソン大会の応援等地域連携を構築して来ましたが、コロナ禍により交流は難しくなっています。職員が地域サロンやグランドゴルフに参加し交流や情報交換・ニーズの把握に努める中で、感染対策を行い、地域との関係が継続できるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	籐華の学生の実習4・6月はコロナの為中止しました		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告、活動、受診、困難事例を2ヶ月に1回開催して、委員の方々から意見を聞いて職員会議を設けて報告して利用者のケアの向上に活かしている	会議のメンバーは地域・行政・家族と沢山の方に参加して頂き2ヶ月毎に開催しています。3月に開催する前はコロナ禍の影響で資料を配布し、意見を頂き書類での開催でした。出された意見は運営や業務見直しに活かしています。	会議の内容を豊かにする取り組みとして、事業所から問題提起を行い、一緒に考えて頂く方法や警察署・消防署の人にゲストとして参加要請をする方法等考えられますが、一考を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導・運営会議で市の担当者から意見を頂いたり、常日頃から相談しながら協力関係を築いている	市の担当者及び地域包括支援センターとはFAX・メール・手紙等で情報交換を行い、市の会議では介護保険改定やコロナ関連の報告を受けています。また、運営推進会議の参加もあり、意見交換や相談・アドバイスを受け協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回身体拘束廃止委員会を実施し、職員会議で検討しつつ拘束しないケアに取り組んでいる	法人内に「身体拘束廃止委員会」を設立し、法人研修や月1回の会議で事例を検討し、全職員で拘束をしないケアに取り組んでいます。家族にも広報誌の中に身体拘束廃止の取り組み、事業所の考え等を説明し、利用者の人権を守る取り組みの理解に繋げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回虐待防止委員会を開いて、その後は職員に啓発を図る為文章を回し周知徹底をはかります		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年j後見制度に該当する利用者はいないが各制度を学ぶ機会を持ち、知識の共有を図るようにする		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書の説明を充分に行っている。又、家族を連絡を取り日頃から理解が得られるようにしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本年度はコロナでご家族の面会が出来ないため電話で要望や意見を聞き運営に反映出来る様にしている。その1つが昨年末よりオンライン面会で家族と話が出来る様にしている	職員は利用者・家族とのコミュニケーションを大切に意見等を聞くように心掛けています。面会時や電話・運営推進会議で積極的に意見交換を行い把握した情報は職員と共有し、ケアサービスに反映させています。	毎月お便りで利用者の近況報告を家族に送り情報交換を行っていますが、中には意見・要望が少ない家族もいます。今後はアンケート等を取られ、忌憚のない意見を求める工夫も期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日管理者会議を開いて、職員の意見等を提示して運営に反映するようにしている	職員の意見は朝礼や申し送り、日々の業務の中で聞くことが多く、業務改善について話し合い、管理者は法人の会議で報告しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の働き方を考慮し、無理なく向上心を持って働けるように条件、環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の中、研修は出来ていないが資格の取得には積極的に対応している。内部研修は事業ごとに行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	していない		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の中で様々な要望や不安なことを傾聴してコミュニケーションを通して、安心感が得られるように信頼関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に本人の状態等とホームへの要望等を聞いている。又毎月広報誌で管理者が様子を伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞いて必要としている支援を提供出来る様に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お餅つきやせりを摘んで仕分けたり、四季折々に様々な行事の中で共に作り上げる工程を楽しみ合える関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時や広報誌で状態を報告している。気になることはその都度電話で話し合いながら関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか外出、面会が出来ない現状の中オンライン面会で顔を見ながら話せるよう家族にはオンラインテキストを配布し、希望すれば離れていても話が出来る様にしている	利用者の高齢化に伴い友人・知人の面会が少なくなったことと、コロナ禍により外出・面会が出来ない現状の中、家族とはオンライン面会を行い、生活歴や馴染みの人・場を把握し、話題の中で馴染みの関係継続を支援しています。自宅の近くにドライブに行くこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を職員が把握してトラブルの招じない様、常に心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後はほとんど関わり事がありません		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在9人中2名は意思疎通の難しい状況です。7名は日々の暮らしの中で個々に職員に訴えてくれています。できる限り思いを適えられるよう対応しています。困難な方は会議で検討しています	思いや意向の把握は日常の生活の中や会話・入浴時等の心を開いた時に把握しており、情報は職員で共有し支援をするとともに、困難な利用者には常に顔を見て語りかけることによりコミュニケーションを図り、寄り添うことを大切に支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時、ご家族・関係機関から情報を聞いている。職員会議の中で共有を図るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・食事・排泄のチェックを行い、一人一人の健康状態を職員全員が把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者の下、担当者会議を開き現状に即したプラン作りをしている。3か月に1回見直し検討をしている	日々のケア記録に介護計画の取り組むべき課題が掲載されており、それに基づいたケアができているか評価されています。3ヶ月毎のモニタリングで達成状況や評価・今後の方向性を検討し、介護計画の見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録簿に日中・深夜の本人の言動・気づきなどを記録している。また、変化した時は会議を開いて情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に生まれるニーズに対応して利用者が楽しめるよう出来る限りの取り組みをしている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナ禍で今まで実践してきたことが出来なかった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医を決め受診や訪問診察で連携を図り、支援している	毎日の健康維持のため、今までのかかりつけ医や訪問診療をして頂ける4つの医療機関と連携を密に図り、病院受診の必要な時は家族に連絡し、職員同行で介護タクシーでの通院介助を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤・夜勤者の日常の関わりの中で利用者の体調に変化にいち早く気づいて、看護職に伝えて受診ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院と連絡を取り、情報収集に努めるようにしている。退院時は事前カンファレンスに参加し、安心して生活が出来る様共有を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は主治医の指示に従って対応している。看取りを行う場合は家族の意向の下、訪看と連携を図り行っている	看取り対応が必要と判断され終末期を迎えた利用者は、家族と話し合い方針を確認した上で、職員ができる範囲でより手厚い対応を心掛けています。職員の看取り経験も多く、終末期を迎えた利用者への尊厳重視の支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署と連携を図り1年に1回、AEDの使い方、応急手当、心肺蘇生の指導を受けるようにしている。急変の対応に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施しているが、夜間の取り組みはなかなか出来ていない。災害時の対応は災害対策計画を作成して全職員に共有を図っている	訓練は、年二回実施していますが職員一人の夜間帯での対応が難しい事と、近隣の協力体制も確立されていないことが課題となっています。災害時の備蓄品は充分に確保していますが、物品の確認等全職員で情報を共有することを、今後取り組みたいと思っています。	災害対策において、安全に利用者が避難出来る様に職員の意識の向上を図る為に、実際に火災・地震等の災害が起きた時にどこまで対応できるかを、訓練後気付きや反省点など、全職員で話し合う事も有効だと思います。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄時、おむつ交換時は個別対応しプライバシーの保護に努めている	6時の朝食後は、自室でゆっくりと自分のペースで過ごして頂いており、7時半に共用リビングに入室してからも利用者のしたいことを自由にしています。声掛けにも、気分を損なわないよう配慮し、排泄介助や入浴時にプライバシーを尊重する対応で支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添い、日常生活の中で個々が思いや希望を自由に表せるような雰囲気づくりに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせてゆったりと過ごせるような環境を作るようにしている。体操、レクレーションも本人の意思に任せて行うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日タオル、靴下は交換して清潔の維持に努めている。女性は特に四季に応じて明るい色を取り入れるように気を付けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付けができる利用者はいないが、四季の中でセリ・筍の野菜を取り、一緒に皮を剥いたりして楽しめる状況を作っている	食事は、汁物・軟らかめに炊いたご飯は事業所内で作っていますが、おかずは全食外注で提供しています。朝食6時、昼食11時、夕食16時で、17時に自室に入室の為早目の夕食時間ですが利用者からは特にその点は問題なく楽しい時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談の上現在3名の方に補助食品としてエンシュアを提供し、栄養強化をしている。水分はお茶・コーヒーを6回出し摂取量を増やしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕と毎食後に口腔ケアを行っている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在夜間のおむつ交換は4名ですが、日中2名はリハビリパンツに変えトイレ誘導を行い、失禁が無く様気持ちよく過ごして頂けるよう配慮している	リハビリパンツやおむつ使用の利用者にも、可能な限りトイレ誘導を行って、自力で気持ち良い排泄ができるよう支援しています。夜間帯にかなりの回数トイレを使用する利用者にも、見守りで安全に自力排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操を行うことで自然排便できるようにしている。おやつも手作りにこだわり提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、3名ずつ午前中に入浴をしている。ゆっくり湯船に入る人など様々だが、個々に添った対応に努めている	入浴は週に二回、午前中の入浴で清潔保持に努めています。入浴拒否の利用者はいませんが、入浴をシャワー浴だけでなく湯船でゆっくりとした時間を楽しむ利用者もおられます。職員は利用者個々に添った支援に努めています。	入浴をしたがらない利用者にも、女性の場合には、高齢であっても入浴時には下半身だけでなく、肩からタオルをかけて胸部を覆うなどの配慮があれば、いくらか拒否感も軽減するのではないかと思われます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は布団を干し、シーツ等は洗濯をし心地よい環境作りに努めている。ある程度時間は決めているが、個々の好きな時間に起きたり、休憩を取ったりして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に全員が関わり、朝昼夕の薬を共有確認している。薬が変更になった都度ノートに記して周知徹底を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操は音楽を流し、それぞれに合ったテープ・傘・棒などをもって手足を動かせる工夫をしている。ゲームは様々な物を使い、毎日リーダーが考え決めて行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナで外出は出来なかった	コロナ禍の中、外出自粛の下で通常の家族との外出や行事の参加・レクリエーションを兼ねた近隣へのドライブ等も全く行うことが出来なかったので、施設内の庭でお茶飲みをしたり、花見・戸外の風景を見ることで、少しでも外の空気を吸って季節の移り変わりを、楽しめるように支援しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分でお金を持っている利用者は2名です。他の方は家族が管理したり、預かったりしています。1名が月・水・金してタバコ・酒・し好品を気分転換に出かけて購入しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話をしたり、手紙のやり取りが出来る様支援してるが、手紙を書いたり来たりすることが今はありません		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには四季の花を飾ったり、手作りのものを展示したり利用者が気持ちよく生活できるような環境づくりをしている	一日の長い時間を、他の利用者と一緒に過ごす共用の場所として、居心地良い生活をして頂けるようテーブルやソファの配置など、利用者にとって安全で快適な共用空間となるよう配慮し、利用者の手作り作品や季節の草花を飾ったりして、明るく楽しい環境作りの工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを4か所に置いてそれぞれが好きな場所に腰を下ろし、くつろげるスペースを作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に応じて椅子を置いたり、テレビを設置して過ごして頂いている。また、温度・湿度計を置いて体調管理を行っている	入居時に、利用者にとって愛着のある馴染みの物・使い慣れた物等、個人の必要なものを自室に置いて寛ぎの居室として頂けるよう、転倒防止や温度・湿度など空調管理に万全の対策をして支援を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子4名・歩行器2名・自力歩行3名です。移動時に接触事故等が無い様、廊下は広く往来しやすい様にしている。自由に歩いても安全な環境作りをしている		